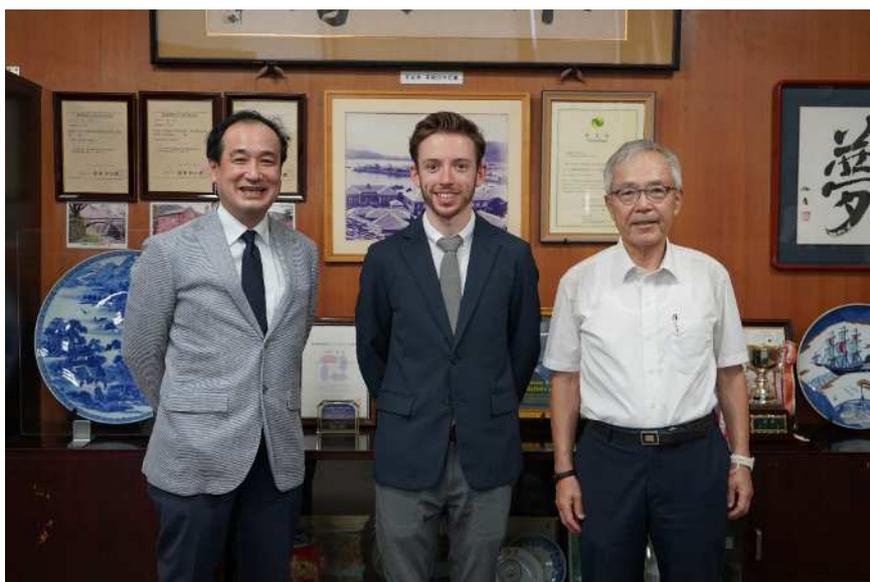


令和4年度（2022）および5年度（2023）NUMF（長崎大学医学研究基金）
による研究者の受入れについて

長崎大学医学部では、学術交流協定を締結しているライデン大学（オランダ）及びヴュルツブルグ大学（ドイツ）との研究者レベルの更なる交流推進を図るため、令和2年4月より、両大学からの派遣研究者に渡航・滞在費（3ヶ月間）を支援する「長崎大学医学研究基金奨学金（通称：NUMF 基金）」を設け、研究者を受け入れることとしました。

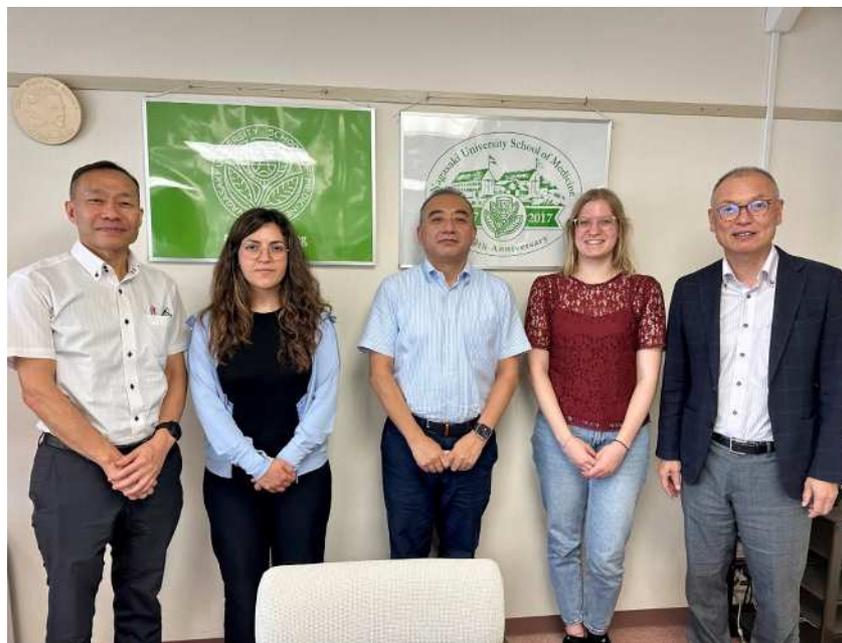
令和3年度（2021）は、本基金初となる、ライデン大学 Enzo Kerkhof さんを移植・消化器外科の江口晋教授のもとで受入れを予定していましたが、しかしながら、コロナ感染症拡大に伴い、翌年の令和4年4月6日～6月30日の期間に来日し、“Development of artificial intelligence (AI) based laparoscopic apparatus and AI installed software for foreign body checking. (人工知能 (AI) を搭載した腹腔鏡装置と AI 搭載の異物チェック用ソフトの開発)”について研究を行いました。



左より江口教授、Enzo さん、河野学長

令和4年度はまた、ライデン大学より Jonne Versluijs さんと Claudia Rossi を受入れました。健康と老化コースの修士課程に在籍の Jonne さんは、4月28日～6月30日の期間において、地域医療学の永田康浩教授のもと“離島における生活習慣病の疫学に関する研究”について研究を行いました。研究の最後には、“長崎県における高齢者の主観的健康に及ぼす人口統計学的、医療的ケアおよびライフスタイル要因の影響 (Influence of demographic, medical care and lifestyle factors on subjective health of the aging population of Nagasaki prefecture in Japan)”と題して、研究発表を実施しました。

健康と老化コースの修士課程に在籍の Claudia さんは、5月11日～7月11日および令和5年4月10日～6月18日の期間において、腫瘍医学の池田裕明教授のもと、“がん免疫学に関する研究”について研究を行いました。



左より池田教授、Claudia さん、池松医学部長、Desirée さん、永田教授

令和5年度は、また、健康と老化コースの修士課程に在籍の Desirée van Dam さんが4月24日～7月7日の期間において、地域医療学の永田康浩教授のもと“地域医療，生活習慣病の疫学，医学教育に基づく地域医療情報とパートナーシップとコミュニティ”について研究を行いました。研究の最後には、“2015年における五島列島に住む高齢者が発汗を伴う運動に参加した結果、介護費用が削減されたことについての報告 (Reduced long-term care expenses in older individuals living on Goto islands in 2015 participating in physical activity with sweating)”と題して、研究発表を実施しました。

